

ふれあい情報

2016年 7月21日(木) 第232号

■発行 日本退職者連合

■発行人 菅井義夫

■連絡先 〒101-0062

東京都千代田区神田駿河台 3-2-11

TEL 03-5295-0507 FAX03-5295-0541

<e-mail> ntr@sv.rengo-net.or.jp

<ホームページ> 「退職者連合」で検索してください。

第20回定期総会

“行動する退職者連合”へ

総会宣言で確認



阿部会長

主催者あいさつで阿部保吉会長は、はじめに総会直前に行われた7月10日投票の参院選の結果に言及、「安倍政権の暴走ストップ、社会保障制度要求の実現を目指して連合と力を合わせ、かつてない取り組みを展開した」と退職者連合の闘争態勢を評価しました。

その上で三つの課題について次のように述べました。まず比例選挙結果について「12人の連合組織内候補が8人の当選にとどまったことは退職者連合としても大きな課題を残した。さらに、運動方針との関連で阿部会長は、雇用や格差の改善にふれ「雇用の安定なくして社会保障なし」として、今後とも一層の取り組みを重視していく考えを示しました。組織拡大については、「連合のご指導と中央・地方の一体的な取り組みに

「安心・信頼の社会保障制度の確立で、生き生きと安心して暮らせる社会にしよう」をスローガンに退職者連合は、7月15日(金)午前9時30分から連合会館において役員や代議員、傍聴者など一九七名の出席の下、第20回定期総会を開催しました。また連合をはじめ各政党や福祉事業団体代表が来賓あいさつしました。今年の総会の特徴は、総会宣言で「行動する退職者連合」を全面に打ち出したことです。決定された運動方針を受けて今後1年間、様々な行動を通じて方針の具体化に取り組みこととなります。

た」と指摘。また32ある定数一人の選挙区での野党候補の一本化について「11勝21敗となり、大きく負け越した。しかし無党派層の一部を取り込み、前回選挙を上回る成果をあげた実績をどう評価するか、率直な検証が必要」としました。三つ目として「自民・公明などの改憲勢力に三分の二の議席を許すという極めて残念な結果となった」とし、「高齢者が安心して暮らせる社会は、戦争をしない平和な社会」と強調、憲法改悪阻止を訴えました。

生き生きと安心して暮らせる社会にしよう!

総会スローガン



▲役員、代議員の熱気があふれた会場、右はご来賓のみなさん。(7月15日、連合会館2階)

より、100万組織の早期実現を目指す」と決意を表明。また要求を実現していくためには「退職者連合の財政基盤の確立が必要」と訴えました。

連合本部退職者の会・松本代表が加入のあいさつ

来賓では、連合の神津里季生会長、民進党の枝野幸男幹事長、労福協の黒河悟副会長、労金協会の吉田正和副理事長、全労済の阿部田克美常務執行役員が登壇してあいさつしました。

また連合本部退職者の会の松本惟子代表が、新規加入のあいさつを行いました。松本代表は、電機連合出身で連合本部副事務局長、衆議院議員を歴任。連合在職中は、男女平等局で女性の権利向上などを取り組みました。その立場から、退職者連合の活動の場に「もっとと女性の参加を」と注文をつけました。

社会保障制度等の政策・制度要求案などが全会一致で承認され、全議案が可決成立しました。

総会では最後に「勤労国民の暮らしを守り、誰もが生き生きと安心して暮らせる社会にするために、本日決定した諸方針を着実に実践し、行動する退職者連合をキーワードに、地道ではあっても粘り強く闘い進もうではないか」との宣言を満場一致で採択しました。

退職者連合は、親睦・交流を軸とした4つのお達者づくり（生きがいがづくり、健康寿命づくり、仲間づくり、社会貢献）や社会的共感の得られる運動なども含め、運動方針や政策・制度要求の具体化に入ります。

◇ (お知らせ)総会記事、会長あいさつ、運動方針、総会宣言、関連写真等は退職者連合のHPに掲載していますので、「活用ください。

ご来賓のみなさん



連合・神津会長

地道に粘り強く進もう

総会では、運動方針や予算



民進党・枝野幹事長



社民党・福島副党首



中央労福協・黒河副会長



労金協会・吉田副理事長



全労済・阿部田常執

2016全国組織代表者会議を開く

地方退連から政策要求(解説版)に期待の声

退職者連合は、7月14日午後1時半から連合本部3階AB会議室で2016全国組織代表者会議を開催しました。会議には、構成組織(産別・関連退連、地方退連)の代表、本部三役・常幹など100名が出席。また今秋開かれる臨時国会に対応するため「介護保険制度改革に関する論点と連合の対応について」と題して伊藤彰久・連合生活福祉局長を講師に勉強会を行いました。



▲会議では、多くの地方退連から活発な意見が出された。



▲伊藤局長

会議は、阿部保吉会長の進行でスタート。本部側から2016組織実態調査のまとめの報告や翌日の総会で提案される社会保障制度等に関する要求案の内容とその解説版が示されました。

意見交換では、会場から「自治体要請を取り組む上

で、大いに役に立つ。こうしたものをもっと作って」と解説版への期待が寄せられました。また参院選挙結果についての意見や4月に行われた衆議院北海道5区と京都3区の補欠選挙に対

する全国からの支援に感謝する報告が、北海道退連と京都退連の代表からありました。阿部会長は、参院選の取り組み結果について地方退連を対象にしたアンケート実施を示唆しました。